

タルチシオ菊池功大司教：紋章の説明



「多様性における一致」

「紋章は伝統を重んじながらも、非常に現代的なデザインを配するという、『多様性』を具現化したものとなっています。紋章の周辺部は伝統的なデザインを踏襲しています。

中心部分は、四つに分かれています。左上部分と右下部分は、実際には青の背景に黄色の波のようなものが描かれています。青は海でもあり空でもあります。波のように見えるのは、開かれた聖書です。すなわち聖書のみ言葉が、世界中に広がるようにとの願いを表しているものです。

左下部分と右上部分には、五つの丸が描かれています。これは世界の5大陸を象徴すると同時に、人間の体も象徴しています。すなわち一つ一つの共同体（一つの丸）が集まって、一人の体（キリストの体）を形成していることを象徴しています。ちなみにこの丸の色は、ブドウの色に近い赤にしてあり、キリストはブドウの木、私たち一人ひとりはその枝である、という聖書のイメージを表しています。

中央にある紋様は五つの丸が複雑に絡み合っ出来ていますが、今まさに開こうとしている花のつぼみを象徴しています。福音のメッセージが日本の地においてこれまで以上に花開くことを願ってのデザインです。」